

れましたことは正にそのことの結果であり、その証明であると思われます。

船本弘毅先生の研究業績は、単著8、共著5、単訳7、共訳2、論文80と非常に多く、その中でも1982年に『ディートリッヒ・ボンヘッファーの倫理学の根本的モチーフとその限界——とくに日本の教会にたいする彼の意義にふれて』(英文)によってセント・アンドルーズ大学より博士の学位を授けられ、さらに、この学位論文は高い評価をうけられ、名誉ある特別賞「サムエル・ラザフォード賞」に輝いておられます。このボンヘッファーを根幹とするキリスト教倫理学の研究は先生の研究の中核をなすものでありますが、近年の研究では、生命倫理や環境倫理の問題に関心を広げて論文を発表されています。

学会活動としては、1970年以来、日本基督教学会幹事・理事として、1986年には上でも述べましたごとくキリスト教学校教育同盟の教育研究委員会全国委員長として、また、キリスト教学校教育同盟の大学部会委員長として、中心的な働きをしてこられました。

以上のような学問的業績のほかに、船本弘毅先生は学生および一般人を対象にしたキリスト教についてわかりやすく説明する啓蒙的な書物を多く出版され、そして、また学内外の新聞などにも精力的に執筆をされました。このことは正に先生の精力的な教育活動の一端を見ることができるのであります。

最後になりましたが、船本弘毅先生、学長職は大変なお仕事であると思います。どうぞ健康に留意され、今後のご発展とご活躍をお祈りするものであります。ここに個人的なことで大変に恐縮ですが、船本弘毅先生と私との長い交わりのなかでうかがえましたが、何事においても常に誠実にお仕事をされていた先生のお姿を拝しつつこの筆をおかせさせていただきます。